ISSN 1880-6295

バイオなどの新技術と学際的研究で循環的未来と地域貢献を

No. 6
2008.3

石川県立大学学歌（歌詞）決定

石川県立大学学歌

作詞　岡部　剛機

一

宙を指す　白山の峰
仰ぐ瞳に　無限の可能
君は今　世界に臨み
独創の　地平を拓け
ああ　輝ける　叡智の空へ
羽ばたく我等に　力あれ

二

藍深き　北方の海
栄えある歴史　映す鏡よ
君は今　知性を磨き
新しき　時代を築け
ああ　果てしない　真理の海へ
漕ぎだす我等に　誇りあれ

三

風わたる　石川の大地
熱き精神が　育む緑
君は今　生命をつなぎ
この地球の　明日を担え
ああ　揺るぎない　決意を胸に
伸びゆく我等に　実りあれ

２ページに関連記事掲載

本号の内容

○学歌（歌詞）の選考結果 …… 2
○平成19年度プロジェクト研究実績発表会 …… 2
○研究者表彰 …… 2
○公開講座・講演会・セミナー …… 2
○第3回響緑祭 …… 3
○クラブ紹介とクラブ成績 …… 4
○最終講義 …… 4
○研究紹介 …… 5
○I・P・Uビール …… 6
○学会・国際交流 …… 6
○平成20年度入学試験状況 …… 6

発行　石川県立大学広報委員会
〒921-8836 石川県石川郡野々市町末松 1 丁目 308 番地
電話 / 076-227-7220　FAX / 076-227-7410
みなさんのご意見をお待ちしています
インターネットホームページ http://www.pref.ishikawa.jp/ishikawa-pu/　電子メール kyoumu@ishikawa-pu.ac.jp

石川県立大学学歌（歌詞）の選考結果

本学の入学式、卒業式および学生の課外活動等において謳唱する学歌を公募いたしましたところ、全国から多くの作品をお寄せいただきました。ご応募いただきました皆さまに対しまして、厚くお礼を申し上げます。平成19年12月、石川県立大学学歌選考委員会において厳正な選考を行った結果、応募総数37作品のなかから、奈良県生駒市の岡部剛機（おかべ たけき）様の作品を学歌として選定いたしました（1ページに掲載）。なお、作曲は石川県出身の作曲家、堀内貴晃氏に依頼しております。

平成19年度学内プロジェクト研究実績発表会

平成 17 年から学内提案型プロジェクト研究制度が発足し、3 年目となります。本年度は全学プロジェクト（1 件）、教育改善プロジェクト（2 件）、地域貢献プロジェクト（6 件）、若手研究プロジェクト（5 件）、学科等企画プロジェクト（5 件）が採択・実施されました。平成 20 年 3 月 5 日に石川県立大学で学内プロジェクトの研究実績発表会が盛大に行われました。

研究者表彰

本学環境科学科の高橋強教授および田中栄爾助教が石川県立大学研究者表彰を受けられ、副賞として若干額の研究費が贈られました。

高橋教授は農業土木学会（現農業農村工学会）の学術賞を「農業集落排水処理とそれを基礎にした農村の生活環境整備に関する一連の研究」により受賞された功績による表彰です。副賞は新しくパソコンと関連ソフトの購入に充てられ、新しい専攻生の卒業研究に役立つものと期待されていました。

田中助教は「東アジア産植物寄生性バッカクキン科菌類の分類および生態に関する研究」で日本菌学会の奨励賞を受賞されました。副賞では顕微鏡用の備品を購入され、さらなる研究の発展を期しておられるようです。「受賞は大変光栄」、よい制度なのでぜひ続けて欲しいということでした。

平成19年度石川県立大学公開講座

第3回石川県立大学公開講座が「楽しい食生活を送るために」というテーマで開催されました。本講座は、いしかわ県民大学校教養講座の一部として、平成19年10月20日、石川県生涯学習センター（金沢市広坂2丁目）において行われ、食品科学科谷口肇教授が「健やかに食べる」という演題で、同矢野俊博教授が「食中毒にかからないために」 という演題で講演しました。

講演会・セミナー

食品科学科第6回公開セミナー、生物資源工学研究所特別公開セミナーなど、多くのセミナーや研究会が石川県立大学で開催されました。平成20年1月28の食品科学科公開セミナーでは、学内2名、学外2名の研究者が最先端の食品科学研究について紹介するとともに、熱心な情報交換が行われました。平成20年2月26日の生物資源工学研究所特別公開セミナーでは、ヘンリー・オークレー博士（リカステ・イダ・アングロア分類学者、イギリス王立園芸協会蘭委員会委員長、イ ギリス蘭協会会長、日本リカステ協会名誉会長）にお越し頂き、「Orchid hunting in Peru（ペルーにおける野生蘭の収集）」と題して、博士の蘭ハンターとしての研究を紹介していただきました。

第３回響緑祭

「響緑」とは緑と響き合い、ハーモニーを奏でるイメージで、バイオと環境を謳う本学にとって象徴的な二文字であるとともに、協力・強力といった意味を含んでいます。響緑祭は、その名の通り、学生自治会が主体となって実行委員会を組織し、皆で協力して作り上げた石川県立大学の大学祭です。

平成19年10月27、28日の両日、各種イベントや野菜・花卉の販売、模擬店のほか、実験コーナー、コンサートなどが行われ、多くの方にご来場いただき盛況でした。

▼野菜販売

▼合唱部

▲私たちが生けた花です

▲クライミングに挑戦！

▲模擬店

▶ブラスバンド

▶ダンス

▶軽音

▶どこから来たのでしょう？

クラブ紹介

テニスサークル

男女15名、学校のコートで週に3回ほど活動しています。今年度は個人戦だけですが5回ほど大会にでました。

お花のサークル

日本の伝統文化「いけばな」の技術を学びながら楽しい活動をしています。免状の資格も取る事ができます。
是非遊びに来てください。

クラブ成績

軟式野球部西日本大学軟式野球選手権大会成績

軟式野球部は、平成19年11月に開催された第24回西日本大学軟式野球選手権（11月10～14日・兵庫県三木市他・参加18校）に北陸地区代表として参加しました。結果は、

10日・1回戦　対 広島市立大学　7－5(延長14回)
11日・2回戦　対 香川大学　1－3

で惜しくも2回戦敗退となりました。選手達の健闘を称えたいと思います。

最終講義

平成20年3月をもって石川県立大学を退職される本学教員の最終講義が平成20年2月8日に行われた。附属農場長谷川和久教授は、「地域資源を利用した環境保全型農業への30余年」という演題で環境保全型農業と農場教育について信念に基づく気迫のこもった講義をされた。続いて食品科学科北村利夫教授は、「食の目指すところ」という演題で、食に関して、幅広い見識に基づいて、ウィットも交えながらの楽しい講義内容であった。両教授の本学への多大なご貢献に感謝いたします。

▲附属農場　長谷川和久教授の最終講義

▲食品科学科
北村利夫教授の最終講義

研究紹介

オンライン上の掲示板を用いてアメリカ人大学生との交流を試みる

教養教育センター　准教授　新村　知子

最近の英語教育では、コミュニケーション重視の活動に焦点が置かれることが多い。テクノロジーの進歩により、インターネットや視聴覚教材を駆使した英語学習も簡単に実施できる時代になった。にもかかわらず、学生のほとんどが、英語を情報伝達の道具として使ったことが一度もないという。

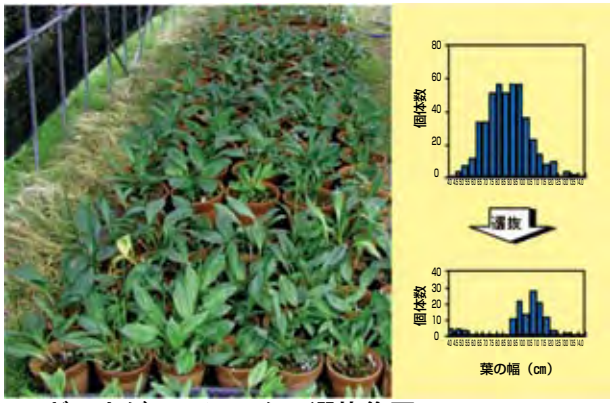
この学生たちに英語は「実際に使える言語なのだ」、「自分の世界を広げてくれる道具なのだ」ということを知ってほしいと思い、平成 19 年度の後期に 2 年生全員に授業の一環として、インターネットを使ってアメリカのインディアナ州にあるローズハルマン工科大学の学生たちとメッセージを交換してもらった。多くの学生たちが最初英語力に不安を持っていたが、アメリカ人学生たちのメールに返信するところから、少しずつコミュニケーションが始まり、ほぼ全員の学生たちが5回から 9 回のやりとりを楽しんだ。学生の声の中に、次のようなものがあった。「ローズハルマンの学生たちとの交流を通して得たもの、それは『自分の英語が実際に英語で生活している人々に通じるという喜び』。これに尽きる。自分の質問に対して思い通りの返答があったとき、少しだけ自分の英語に自信がついたように感じた。そしてお互いに貴重な時間を共有できたと思う。」今後も学生たちに、このような交流の機会を持たせてやりたいと希望するものである。

▲新村准教授　授業風景

新しい品種をつくる

生産科学科　植物遺伝育種学研究室　教授　鈴木正一

研究テーマの一つであるギョウジャニンニクの品種改良について紹介します。ギョウジャニンニクは、ネギ属の多年生植物で近畿以北に自生が見られ、ニンニクと類似した成分を含み、抗血栓作用、コレステロールの低減、抗菌作用など機能性食品としても注目されています。新芽を食用としますが、野生のものは葉の大きさ・形など様々で非常に変異に富み、そのまま農作物として栽培するにはあまり都合が良くありません。そこで、食用として利用する芽が大きく、たくさん採れ、栽培しやすく、機能的にも優れた品種を育成しようとしています。これまでに､葉が広くて大きな芽を作ることができ、機能性の高いものを野生の集団と種から育てた集団から選び出しました。今後、それらの中から良く殖えて沢山の芽を収穫でき、栽培しやすいものを選び、目的とする品種にしたいと考えています。



▲ギョウジャニンニクの選抜集団

▲鈴木教授　研究室にて

I・P・U ビール

石川県立大学附属農場で栽培された二条オオムギ（ビール麦）を川北町の農業法人「わくわく手づくりファーム川北」に提供し、同ファームが醸造したオリジナル地ビールが完成。大学の頭文字をとって「I・P・U Beer」と名付けられ、学内外で販売されました。原料の麦は、二年生の農場基礎実習で、本学附属農場の長谷川和久教授と永畠秀樹助教の指導の下に学生が栽培した二条オオムギ品種「あまぎ二条」で、約290kgの収穫量がありました。栽培と加工、原料と商品化の関係を学生が体験を通して学び、地場産業への貢献を考えるきっかけになったようです。ビールを購入した教職員の話では、軽やかさと麦芽のこくを兼ね備えた美味しいビールとの評判でした。

I・P・U Beerを手にする長谷川教授（左）と永畠助教（右）

学　会

第57回地域農林経済学会大会、国際会議、地域シンポ、個別報告会が、平成19年10月19－22日に、石川県立大学と金沢文化ホールで開催されました。本学生産科学科の辻井博教授が企画実行した国際シンポジウム「直接所得支払政策は効率的経営を増やし、生産に中立的で、多面的機能を向上するか」は、4カ国から8人の学者を招聘して実施されました。

国 際 交 流

外国人学者の招聘

インドネシア・ガジャマダ大学の講師 Dr. Ageng Herianto が、ジャワのアグロフォレストリーの持続性に関して、本学生産科学科辻井博教授との共同研究のため、2月23 ー 27日の期間石川県立大学を訪問されました。

平成 20 年度入学試験状況

◆ 一般選抜

区分	学科	募集人員（人）	志願者数（人）	志願倍率（倍）	受験者数（人）	受験倍率（人）	合格者数（人）	実質倍率（倍）
前期	生産科学科	22	59	2.7	57	2.6	33	1.7
	環境科学科	22	53	2.4	51	2.3	33	1.5
	食品科学科	22	63	2.9	62	2.8	35	1.8
	計	66	175	2.7	170	2.6	101	1.7
後期	生産科学科	10	106	10.6	42	4.2	13	3.2
	環境科学科	10	92	9.2	33	3.3	17	1.9
	食品科学科	10	88	8.8	36	3.6	10	3.6
	計	30	286	9.5	111	3.7	40	2.8
合計		96	461	4.8	281	2.9	141	2.0

◆ 推薦

区分	学科	募集人員（人）	志願者数（人）	志願倍率（倍）	受験者数（人）	合格者数（人）	実質倍率（倍）
推薦入学A	生産科学科	6	9	1.5	9	5	1.8
	環境科学科	6	5	0.8	5	4	1.3
	食品科学科	6	12	2.0	12	5	2.4
	計	18	26	1.4	26	14	1.9
推薦入学B	生産科学科	2	2	1.0	2	1	2.0
	環境科学科	2	1	0.5	1	0	－
	食品科学科	2	1	0.5	1	1	1.0
	計	6	4	0.7	4	2	2.0
合計		24	30	1.3	30	16	1.9

大学の動き

10月22日	公開講座
10月27、28日	第3回響緑祭
11月17日	推薦入学試験
2月 8日	長谷川和久教授、北村利教授最終講義
2月25日	前期日程試験
3月 5日	学内提案型プロジェクト研究実績発表会
3月12日	後期日程試験

<< 編集後記 >>

IPU News (石川県立大学広報)　第6号をお届けします。学科棟に隣接して大学院棟が建設中です。また、大学として大学院設置認可申請の準備を進めており、ハード・ソフト両面で大学院開設の準備が進行中です。来年の3月に石川県立大学を卒業する第1期生の中から何人もの学生が新設予定の本学大学院に進学し、研究や専門技術職の道を志すことを願いながら、4月から始まる卒業研究で研究の楽しさを学生と共有したいと研究計画を考えている今日この頃です。

石川県立大学広報委員会